

長野県 P T A 新聞

県P結成70周年記念 陽だまり懇談会開催



- 1 子どもの個性を伸ばしていますか？  
～自己肯定感を高めるコミュニケーションとは？～
- 2 携帯・スマホ・ゲーム機の約束は守られていますか？  
～自分をコントロールする力・切り替え力をどう育てる？～
- 3 社会性を育む地域とのかかわりはとれていますか？  
～親以外の大人とのあふれる機会をどう活かす？～
- 4 担任の先生とのコミュニケーションは上手くとれていますか？  
～情報交換の場とびる字級懇談会を充実させよう～

～ほんの少し視点を変えて考えてみよう～



発行  
長野県 P T A 連合会  
長野市旭町1098信濃教育会館内  
TEL 026-235-4361  
発行者/大島 修  
編集者/堀 紀美子

ホームページ  
http://www.pta-naganoken.net

E-mail  
office@pta-naganoken.net

Facebook  
https://sites.google.com/view/naganopta-facebook/

**ワールドカフェって？**  
知識や知恵は機能的な会議室より、人々が自由に対話を行う『カフェ』のような空間の方が生まれやすい！という考えに基づいた手法である。

- ワールドカフェの進め方**
- ・1つのテーブルに3～6名。ホスト役1名。
  - ・20～30分×3ラウンド。
  - ・テーマについて思ったことを付せんに書く。話しながら付せんを模造紙に貼る。
  - ・別のテーブルへ移動して情報を共有する。

- ワールドカフェのマナー**
- ・相手の話をよく聞く。
  - ・出された意見を否定しない。
  - ・お茶を飲み、お菓子を食べながらリラックスした気分で会話を楽しむ。
  - ・必ずしも正解や結論を出す必要はない。

**子どもの個性を伸ばしていますか？**  
「がんばれ！」よりも「がんばってるね」と認める。  
親よりも周りの大人の褒め言葉が、自己肯定感を高めるかもしれない。

**社会的な育む地域との関わりはとれていますか？**  
行事だけでなく、あいさつ等でも関わりがもてると思う。  
子どもが減って共働きの家庭が増え、地域の行事が成り立たない。

**担任の先生とのコミュニケーションはとれていますか？**  
先生と子どもの信頼関係ができていて、大切なことが伝わっている。大丈夫。  
子どもたちの教育のために、先生方の働き方の現状を知る必要がある。

**参加者の声**  
初対面の方々とコミュニケーションをとるのは難しいが、テーマづくりによって話しやすい雰囲気を作れることが分かってよかった。  
ワールドカフェを学級懇談会に取り入れたらよいのではないか。  
父親の参加も多く、それぞれの目線から意見

**言葉の力**  
講師の浅輪さんは冒頭、参加者がリラックスできるように、クイズなどで会場を和ませてくださった。  
講話では、ご自身の子育てや P T A 活動から得た経験について、様々な思いを語られた。

**まとめ**  
陽だまりのような安心感で満たされている居場所。子どもたちの健全な育ちに欠かせないものである。そこで交わされる日常のあいさつや言葉がけに心を配りたい。  
中でも「ありがとう」という感謝の気持ちは言葉で直接伝えたい。気を付けたい言葉は、「どうしてそんなことができないの？」という、相手を追いつめる言葉である。感情のままに言葉にしてしまってもあるが、責める言葉は控えて！  
もう一つは「早くして！」「我が子に何度か言ってきたらいいから、もう少し早くしてほしいんだけど」と伝えれば、子どもも分かりますか？  
子どもを親の思い通りにしようとする親は、親は子より偉いわけではないことを心に留めていたいと思う。今からでも決して遅くはない。気付いたときにチャンスである。そんな小さな心掛けから、子どもは個性を伸ばしていきけるのかもしれない。



- 4 全国表彰
- 3 日 P 全国大会・関東ブロック大会
- 2 県教委との教育懇談会
- 2 単位 P T A 訪問

友達とお茶を飲みながらおしゃべりを楽しむ。結論が欲しい訳ではない。ただ、話を聞いて、相手の話を傾け、共感して、気持ちよく話せる。同じ歳の子どもを持つ親同士が集まる学級懇談会こそ、リラックスして語り合える、そういう場であってほしい。皆さんも『年〇組カフェ』を開店してみませんか。

「お母さんは急いでいるから、もう少し早くしてほしいんだけど」と伝えれば、子どもも分かれますか？  
子どもを親の思い通りにしようとする親は、親は子より偉いわけではないことを心に留めていたいと思う。今からでも決して遅くはない。気付いたときにチャンスである。そんな小さな心掛けから、子どもは個性を伸ばしていきけるのかもしれない。

陽だまりのような居場所。子どもを甘やかすのではなく、親が子どもに寄り添ってあげることが出来る場所でありたい。

親は我が子に対して、それぞれに願いがあるが、我が子を信じる親の姿勢が必要ではないだろうか。  
原点である「家庭」から、子どもたちのために私たちが何ができるのか、学び合う機会を今後大切にしていきたい。(S・M)

2月下旬に薄緑色の封筒に入ったご案内を各学校に配布させていただきます。 P T A 小・中学生総合補償制度

**ケガをした**  
通院1日目から補償  
※プランは交通事故等のみ

**ケガをさせた**  
自転車と歩行者と衝突した  
※全プラン

**物をこわした**  
友達の物をこわした  
※全プラン

**病気で入院した**  
日帰り入院から補償  
※Hプランのみ

※平成31年度から新たに交通事故傷害保険『Jプラン』を追加!!  
4月1日補償開始の申込締切は3月25日です!  
詳しくは学校で配布された薄緑色の封筒の中のパンフレットをご覧ください。

○平成31年度から、交通事故傷害保険 (Jプラン) が追加されました。  
○全プランに個人賠償責任補償 (示談交渉サービス付) が付帯されています。  
○個別加入に比べて保険料は約56%割安です。(注)  
(注) この制度の被保険者数と保険金のお支払い状況によっては、今後変更となる場合があります。



自転車事故でも高額な損害賠償金を請求される場合があります。  
引受保険会社: 共栄火災海上保険株式会社 お問い合わせ: 小・中学生総合補償制度担当係  
電話: 026 (234) 2180

	申込締切日 (消印有効)
4月1日補償開始	3月25日
5月1日補償開始	4月25日
6月1日補償開始	5月24日

承認番号: B18-1948-20200115

# 全国表彰

平成30年度文部科学大臣表彰及び日本PTA全国協議会会長表彰が、11月21日都内ホテルにて皇太子同妃殿下ご臨席のもと盛大に行われた。全国では247団体998名、本県からは4団体20名が表彰の栄を受けた。以下に受賞団体と受賞者を紹介する。(敬称略)

## ■文部科学大臣表彰

- (団体) 茅野市立 永明小学校PTA 佐久市立 浅間小学校PTA
- (個人) 山崎 弘道 (平成24年度会長) 胡桃澤 公司 (平成25・26年度会長) 青木 十郎 (平成27年度会長)

## ■日本PTA全国協議会会長表彰

- (団体) 大桑村立 大桑小学校PTA 中野市立 豊田中学校PTA
- (個人) 千野 貴文 (長野市) 坂井 良平 (大北) 寺沢 隆宏 (上高井) 黒岩 裕子 (上高井)
- (特別個人) 草間 由紀子 (松本市) 久保 華奈子 (更埴) 内藤 恭子 (更埴) 宮原 広美 (更埴) 岩崎 明美 (上高井) 五味 明美 (上高井) 木下 まなみ (長野市) 赤塩 香 (長野市) 関田 富志子 (長野市) 町田 和子 (長野市) 坂本 明子 (長野市) 宮本 信子 (長野市) 宮坂 ゆかり (上高井)



全国表彰は、PTAにおける活動が社会教育の発展に貢献した団体・個人に対して行われるもので、教育の向上と文化の振興に寄与することを目的としている。

## 文部科学大臣表彰(団体)

### 茅野市立永明小学校PTA

PTAのICTサポート特別委員会では、高学年の希望者を対象に、年6回パソコン教室を実施している。諏訪東京理科大学の教授や学生を講師に招き、パソコンを使ったプログラミング学習

## 日本PTA全国協議会会長表彰(団体)

### 大桑村立大桑小学校PTA

PTAと信州型コミュニティスクール「オオクワガタCS」が共同で、文化伝承と地域づくりを推進していきたくないと考え、地域の史跡巡りを『須原宿を歩こう』を企画した。史跡を巡ることで大桑村の文化に接する機会が提供できた。

### 中野市立豊田中学校PTA

児童数の減少によりPTA活動の縮小や組織運営の効率化等どこか消極的になりつつある。しかし、児童数が少ないからこそできる「きめ細かな



生徒数が減少し、小中学校適正配置の地域議論の中でPTAと学校が一体となって小規模校について考え、充実を図っていくことに取り組んだ。①保護者にアンケートを実施。それを基にPTA役員の選出方法を、地区代議員は複数の地区を統合して行うことや、三役

や、タブレットを使用したプログラミングによるロボット操作の体験をした。また、4・5・6年の児童と保護者を対象にしたネットマナー講習会も開催している。保護者、教職員が会員となり、会員同士のつむぎ合い(つながり)を大切に考え、みんなが楽しんで参加できるような活動の工夫を図っている。

### 佐久市立佐久平浅間小学校PTA

PTAが児童と共に、地域の景観向上・環境美化のため「PTA花いっぱい活動」を行っている。校舎のペランダにプランターを設置することにより、学校近くの高速度道路を利用するドライバーや新幹線の乗客にも好評だという。児童が世話をす

は全体の意向と学年の現状を考慮できるよう会則を変更した。②豊田中学校の「信州型CS」の組織図を基に、学校支援ボランティアと

## 第9回長野県PTA三行詩コンクール

今年度の応募作品は4,725点。優秀作品の中から3点を紹介する。(敬称略)

### ★長野県PTA連合会長賞

今日の出来事話す声

その声きいて笑う声

いろんな声であふれるご飯

中村蓉乃(穂高北小6年)

受賞者の声

私が大好きな家族で集まる夕食の時のことを表した詩です。私がいつか家族をもった時も、こんな夕食になるといいなと思います。

### ★優秀賞

子供部屋

あるけどみんな

茶の間好き

吉野 風(菅原中2年)

叩かれ蹴られ 布団取られ

それでもやっぱり幸せを感じる

子どもたちの間で眠る時間

高尾 令(下久堅小保護者)

### ★優良賞

- 内田瑞葉(筑摩小3年)
- 東 歩武(日義小中5年)
- 西山うたの(穂高北小6年)
- 青木遥佳(筑摩小6年)
- 松島太郎(中川中1年)
- 藤松あい(菅原中2年)
- 大宮 奏(飯田東中2年)
- 柳澤桃羽(信大附属松本中2年)
- 寺澤孝一(八幡小保護者)
- 山田博美(箕輪西小保護者)
- 宮崎未来(中川中保護者)
- 宮澤己江(中川中保護者)

### 講評

しぐさや態度でお互いの存在を大切にしている心が、つながりを感じることができた。また「うれしい」や「ありがとう」などの気持ちを言葉にしないで伝わってくるような表現ができればよい。

8月24・25日に日本PTA全国研究大会が「教育は未来を拓く新潟発 米百俵の精神」をテーマに新潟県内10会場で開催され、全国より約7500名が集い長野県からは133名が参加した。1日目の地域連携・第66回日本PTA全国研究大会 第50回関東ブロック研究大会 新潟大会

広報活動をテーマにした第4分科会では、文科省コミュニケーション推進員の新谷さゆり氏が講演し、コミュニティスクールは、我が子に伝えたいものであった。

僕たち! 私たち! がつくっています!

# 信州の牛乳を飲もう!

毎年開催の料理コンクール受賞作品のレシピ等ご覧いただけます。 やっぱ信州の牛乳でしょ

長野県生乳生産販売委員会  
信州 JA全農長野  
長野県牛乳普及協会

検索

# 長野県教育委員会と

## 県PTA連合会との教育懇談会

### 子どもたちのための働き方改革へ

11月13日に信濃教育会館において、長野県教育委員会から9名、長野県PTA連合会から41名が出席し、教育懇談会が開催された。

長野県の「学校における働き方改革」について県教委、PTA間で様々な意見が熱く交わされた。建設的な意見交換を通して課題が整理され、今後につながる実りある懇談会となった。当日の様子を報告する。



冒頭、県PTA連合会の大島修会長は「県教委と県PTAが対等な立場で連携して、より一層子どもたちの教育環境を充実させたい」とあいさつした。続いて、県教育委員会委員の原山隆一教育長が「皆様との率直な意見交換を通じて、子どもたちの新しい未来を一緒に創りあげていきたい」と話された。

その後、働き方改革を軸に3つの柱で質疑応答が交わされた。以下に主な内容を載せる。

#### 学校業務の削減と分業化・協業化について

県P 教職員の本来の業務である「学習指導」「生徒指導・進路相談」「学級運営・学校運営」以外の業務について明らかにする業務ではないと思われ、内容がある。

県教委 文部科学省が示した「基本的には学校以外が担うべき業務」として挙げられたのは4点である。①登下校に関する対応②放課後から夜間などにおける見回り、児童生徒が補導されたときの対応③学校徴収金の徴収・管理④地域ボランティアとの連絡調整である。

県教委ではそれぞれについて整理し、担当課が取り組んでいる。県P 業務の棚卸や切り分けができていて、分業化、内容と今後の方向性を、具体的に開かせたい。

県教委 働き方改革の目的は、すべての学校・教室で、質の高い授業が実現することである。その

基本方針として、次の項目を挙げた。①専門スタッフを活用した分業化体制の構築②時間外の電話には留守番電話、転送電話等で対応③長期休業期間中は、一定期間の学校閉庁日を設定。

学校と家庭の役割の明確化及び保護者の学校支援について

県P 「働き方改革」について各単位PTAの研究、意見交換の場などで「現場の先生の生の声があがっていない」という意見があがっており、協力がたくてもできない現実が浮き彫りになっている。

県教委 保護者のご理解やご協力により軽減される見込みのもの等について、広くPTAの皆様が知っていただくことは意義あることと思う。市町村教育委員会を通じて、各学校のPTA役員の皆様と相談しながら、子どもたちの成長のために学校、PTA双方が生みの声を出し合うことや何ができそうか、どうすれば改善できるかについて考えていくことを提案したい。

県P 公立小中学校の夏休みの延長を検討することにより、1日当たりの授業時間が増加して、先生方の負担がさらに増え、子どもたちへの影響が心配される。現段階での施策や方向性をお聞か

せ願いたい。

県教委 指導時間増加のため、他の都道府県の市町村においては夏休みを短縮する動きもある。本県では、体験を通じた学び、特に学校行事を大切にしている教育活動を実施してきており、年間登校日数は全国平均と比べ5日程多く、年間授業時間は35時間程多い状況である。

各種団体や企業へのPTA活動理解に対する働きかけについて

県P 保護者の6割以上が共働き世帯であり、仕事で理由でPTA活動に思うように協力できない保護者が大半である。企業経営者、団体の長が理解が得られない状況で、協力しようにもできない問題も明らかになってきている。PTA活動に参加しやすい環境をつくるため、長野県教育委員会、長野県PTA連合会、県内の経済団体が連名で各企業や団体に、PTA活動への理解と協力を向けてメッセージを出したい。

県教委 経済団体への働き方改革に関する要請の場や、経済団体が構成員となっている「長野県就業促進・働き方改革戦略会議」において、産業界と連携して働きかけを行ってほしい。

育成会と連携したPTA活動のより良いあり方

地域の育成会では、家庭数・児童数の減少により、活動の維持や育成会指導員の確保が難しい状況が起きている。保護者や育成会指導員の負担を軽減し、充実した活動を進めるため、育成会とPTA活動がどのように連携していったらよいかを考えた。

研究成果

PTAと連携し、育成会指導員の新たな人材が確保できた。また、学校を中心に地域として育成会を支える体制が整いつつある。限られた人数の中で活動を続けるために、育成会事業やPTA

研究会内容

①育成会の指導員の選出方法を情報収集や話し合いを経て変更。PTA地区会長が次年度に務め、任期を1年間とした。

②7月に開催される「子どもカーニバル」に、子どもたちの自

らめ方、叱り方のポイント等を提言としてまとめ、意見交換会を行った。

③「子育てフォーラム青木」で、保護者や参加した方への②の提言と生徒アンケートの報告を行い、意見をまとめた。

④中学校のPTA担当職員が自尊心について東京都の現地研修に参加した。

# 第27次 PTA実践報告

長野県PTA連合会では、PTA活動の充実と発展のために研究委嘱事業を実施している。県内4地区を代表する単位PTAの今年度2年次となる研究テーマに沿った実践報告から、その一部を紹介する。

## 子どもの自尊心を育てよう

「保小・中PTAの連携による地域全体の取り組み」

村の保小・中一貫教育の発表の場「子育てフォーラム青木」で話題に上がった「子どもの自尊心(自己肯定感)を育てたい」という願いに、PTAとしてどう関わりができるのかを考えた。

## 研究成果

家庭でも取り組んでほしい子どもへの声のかけ方、自尊心の醸成について、具体的な提言を行った。また、生徒へのアンケート結果から「親や教師に褒められる」「自尊心が育つ」とは単純にいかないことが分かった。自尊心は

育てることに関する内容、生徒には自分の好きなところ等を問うアンケートを実施した。

②アンケートを基に、子どもが自尊心を伸ばす場面や、そのための褒

め方、叱り方のポイント等を提言としてまとめ、意見交換会を行った。

③「子育てフォーラム青木」で、保護者や参加した方への②の提言と生徒アンケートの報告を行い、意見をまとめた。

④中学校のPTA担当職員が自尊心について東京都の現地研修に参加した。

PTAと連携し、育成会指導員の新たな人材が確保できた。また、学校を中心に地域として育成会を支える体制が整いつつある。限られた人数の中で活動を続けるために、育成会事業やPTA

研究会内容

①育成会の指導員の選出方法を情報収集や話し合いを経て変更。PTA地区会長が次年度に務め、任期を1年間とした。

②7月に開催される「子どもカーニバル」に、子どもたちの自

らめ方、叱り方のポイント等を提言としてまとめ、意見交換会を行った。

③「子育てフォーラム青木」で、保護者や参加した方への②の提言と生徒アンケートの報告を行い、意見をまとめた。

## 研究成果

家庭でも取り組んでほしい子どもへの声のかけ方、自尊心の醸成について、具体的な提言を行った。また、生徒へのアンケート結果から「親や教師に褒められる」「自尊心が育つ」とは単純にいかないことが分かった。自尊心は

育てることに関する内容、生徒には自分の好きなところ等を問うアンケートを実施した。

②アンケートを基に、子どもが自尊心を伸ばす場面や、そのための褒め方、叱り方のポイント等を提言としてまとめ、意見交換会を行った。

③「子育てフォーラム青木」で、保護者や参加した方への②の提言と生徒アンケートの報告を行い、意見をまとめた。

④中学校のPTA担当職員が自尊心について東京都の現地研修に参加した。

## 研究会内容

①育成会の指導員の選出方法を情報収集や話し合いを経て変更。PTA地区会長が次年度に務め、任期を1年間とした。

②7月に開催される「子どもカーニバル」に、子どもたちの自

らめ方、叱り方のポイント等を提言としてまとめ、意見交換会を行った。

③「子育てフォーラム青木」で、保護者や参加した方への②の提言と生徒アンケートの報告を行い、意見をまとめた。

④中学校のPTA担当職員が自尊心について東京都の現地研修に参加した。

## 成果と課題

PTAと連携し、育成会指導員の新たな人材が確保できた。また、学校を中心に地域として育成会を支える体制が整いつつある。限られた人数の中で活動を続けるために、育成会事業やPTA

研究会内容

①育成会の指導員の選出方法を情報収集や話し合いを経て変更。PTA地区会長が次年度に務め、任期を1年間とした。

②7月に開催される「子どもカーニバル」に、子どもたちの自

らめ方、叱り方のポイント等を提言としてまとめ、意見交換会を行った。

## 成果と課題

PTAと連携し、育成会指導員の新たな人材が確保できた。また、学校を中心に地域として育成会を支える体制が整いつつある。限られた人数の中で活動を続けるために、育成会事業やPTA

研究会内容

①育成会の指導員の選出方法を情報収集や話し合いを経て変更。PTA地区会長が次年度に務め、任期を1年間とした。

②7月に開催される「子どもカーニバル」に、子どもたちの自

らめ

# 椋鳩十氏の教えを受け継ぐ



喬木村  
たかぎだいいち  
**喬木第一小学校**

伊那谷を南北に流れる天竜川が、悠久の流れの中で作った、国内でも最大規模といわれる河岸段丘の東岸に喬木第一小学校がある。「大造じいさんとガン」などで知られる児童文学者の椋鳩十氏の母校であり、椋氏の言葉「力一杯 今を生きる」を教育目標に、316名の子どもたちが学んでいる。



想像ふくらむ読み聞かせ

PTA教養部では「親子で椋文学に親しむ会」を年に一度、村内にある椋鳩十記念図書館で開催している。これは、平成2年に制定された「椋先生の日(11月26日)」に合わせて始まった「椋文学の読書会」が親子で楽

## 親子で楽しむ「椋鳩十」文学

参加した児童は「教養部の方の読み聞かせが一番楽しかった。また参加したい」と話し、親子で楽しみながら椋文学に触れることのできるひとときとなっている。

## 地域で取り組む三校資源回収

毎年秋季に、村内の喬木第二小学校、喬木中学校



実験では子どもたちが大活躍

三校が合同で行う資源回収であるため、全村挙げ取り組んでいる。小学校主導の資源回収の際にも中学生が作業を手伝うなど、地域全体で支え合っ

## 取材を終えて

取材を終えて  
同校には椋鳩十氏の言葉の石碑がある。その言葉を入れたTシャツを作成し、校外活動や運動会で着用するなど、椋氏の精神は今も息づいている。



## 単位PTA訪問 No.91

# 地域と共に歩み続ける



高山村  
たかやま  
**高山中学校**

長野盆地の北東部、群馬県境に位置する高山村。昭和34年に開校した高山中学校は、一村一校の中学校として地域と共に歩み、今年度創立60周年を迎えた。昨年度はユネスコスクール認定を受け「自ら学び 高みゆく」の学校目標のもと、生徒183名が様々な活動に取り組んでいる。

この会は父親がPTA活動に参加する機会を設け、父親同士のつながりを作るため、2003年に発足した。門松作りは、2011年から続けており、毎年PTA役員ら20人程が参加している。



伝統を伝える門松作り

「古いものに興味や関心を持つことで、発想力や想像力の豊かな人になるので、この行事を続けたい」と語る。



生徒会長が指揮する「大地讃頌」

PTA会長がボランティアスタッフとして携わっており、講師としてのサプライズ出演で会場を盛り上げた。村澤PTA会長は「子どもたちの反応がすくなく、講師としても楽しくショーを行うことができた」と語った。

## 取材を終えて

子どもと一緒にPTA活動が多い素敵な学校である。門松作りも合唱も貴重な体験だったという感想が保護者や生徒から聞かれた。生徒には伝統文化を、地域の方には学校の情報を届けたいという熱意を感じた。村議員との中学生会議もあるこの学校は、地域と共に歩み続けている。

## おやじの会による手作り門松

日本の伝統を伝えていきたいと、おやじの会が毎年恒例行事としている門松作りを12月に行った。

ねる鶴の首結び、藁の上を編み込む男結びなどの伝統技術も学んだ。

## 学校と地域をつなぐPTA会報

教養委員会が年2回発行しているPTA会報「楓の森」は、在校家庭だけでなく村内2464全戸に村報と一緒に配布されている。会報名は、校長室の窓から見える中庭の楓から命名された。

## 生徒と合唱「大地讃頌」

PTAコーラスは毎年音楽会で生徒と共に「大地讃頌」を合唱している。今年度の創立60周年記念式典では最後に一緒に歌った。

## 編集後記

働き方改革が推進される中、現場での職員意識も徐々に「できるだけ勤務時間内に仕事を終わらそう」という笑顔で子どもたちと向き合おうといったものに変わってきているように感じる。6月と8月の土曜日、子どもも参加のPTA環境整備作業を実施した際、職員は翌週一斉に勤務の振り替えを行った。業務の振り替え計画に「勤務の振り替え日」のため5時間授業であることを記載し、保護者にもご理解いただいた上で、当日はほぼ全員が早めに退勤することができた。

- ◇ 編集後記
  - 堀 紀美子 (旭ヶ丘小)
  - 橋本 郁子 (宇井小)
  - 宮本 信子 (城東小)
  - 伊藤 由佳 (屋中)
  - 小林 美子 (吉田小)
  - 西澤 洋子 (須谷小)
  - 井上 亜里 (須谷小)
  - 森山 奈々 (安茂里小)
  - 宮尾 彰一 (磯井東小)
- ◇ 広報委員
  - 川口 彰 (上水内)
  - 小林 智 (飯水)
  - 向山 賢悟 (上伊那)
  - 一志 信之 (安曇野市)
  - 由井千佳恵 (全伊那)
  - 市場香代子 (上伊那)
  - 白鳥 郷史 (安曇野市)
  - 堀 紀美子 (上高井)
  - 外山あけ美 (長野市)
- ◇ 新聞編集委員
  - 堀 紀美子 (旭ヶ丘小)
  - 橋本 郁子 (宇井小)
  - 宮本 信子 (城東小)
  - 伊藤 由佳 (屋中)
  - 小林 美子 (吉田小)
  - 西澤 洋子 (須谷小)
  - 井上 亜里 (須谷小)
  - 森山 奈々 (安茂里小)
  - 宮尾 彰一 (磯井東小)

子どもたちのために 公益財団法人 長野県学校給食会 〒381-0103 長野市若穂川田3800番地5 TEL 026-282-6080 FAX 026-282-6535